

平成 30 年度 第 5 回レフェリーアカデミーレポート

氏名	島村 奈央美	所属	福岡県協会
----	--------	----	-------

期 日	平成 31 年 2 月 23 日 (土) 24 日 (日)
会 場	トヨタスポーツセンター
大会名	第 10 回チャレンジディビジョン順位決定戦
研修内容	①個人の技術向上「走力」「振る舞い」「競技規則の正しい運用」 ②正確な判定を目指すための要素を取得「位置取り」「視線」「予期・予測」 ③ゲーム運営「得点管理」「時間管理」「ベンチ管理」
第 5 回テーマ	①『レフェリーとしての立ち振る舞い (正しいジェスチャー) を身につける』 ②「インフォメーション」「ボディーランゲージ」「段階的罰則」の使い方を身につける。

検証動画の詳細			
日時	平成 31 年 2 月 23 日	会場	トヨタスポーツセンター
対戦カード	決勝トーナメント 1 回戦 HONDA VS HCサンワード		
担当レフェリー	高橋 由美 , 若森 紗羅良 ペア		

試合経過時間 (動画時間)	現象の詳細・改善点 など
前半 3 : 17 (① 3 : 20)	水色 22 番が攻めてきているのに対して、赤 6 番が接触をしながら守っていた。強い接触があったが、プレーヤー同士でコンタクトをとる様子がみられた。 ゲームの最初のフリースロー判定であり、プレーヤー同士がコンタクトをとっていた場面であるが、CR からボールに対して守りに行くようにとボディーランゲージを用いて、伝える必要がある場面だと考える。
前半 9 : 19 (① 10 : 29)	水色 22 番が攻めてきているのに対して、赤 6 番がホールディングをしたとき、ユニフォームをつかんでいた。 CR がユニフォームをつかんでいるのに対してボディーランゲージを用いて口頭で注意を行っており、選手もそれに対してうなづく様子がみられ、再開もスムーズに行われていた。この場面ではボディーランゲージが必要だと考える。

<p>前半 18 : 04 (② 3 : 00)</p>	<p>赤 2 番の DF プレーヤーが水色 10 番のピボットプレーヤーを守っているときに、GR がプッシング、2 分間退場の判定を行った。 再開前にコート内の DF プレーヤーに対して、ボディランゲージを用いてコンタクトをとっている様子がみられ、プレーヤーも反応をしていた。激しいプレーではなかったが、前半で選手たちに基準をしっかりと伝えるために、この場面でのボディランゲージは必要であると考えます。</p>
<p>前半を通して</p>	<p>フリースローの判定をしたときに、3 m の距離を確保のインフォメーションが前半の最後までみられた。確保できていないのであれば、インフォメーションが必要であるが、最初の判定でしっかりと伝える必要がある。クイックでスローが行いたいときに、レフェリーがいて、プレーができないという状況にもなりかねないと思うので、毎回の 3 m 確保をしなくていいように、前半の前半でしっかりと伝えていきたい。</p>

第 5 回受講・動画検証を行った感想

今回は実技なしでの参加となり、他のアカデミー生のレフェリングを多く見ることができ、自分のレフェリングをしっかりと考えることができた。また、インフォメーション・ボディランゲージのプレゼンでも、それぞれについての自分の考えを見直すことができた。選手に伝えるためにそれぞれを用いてゲームを進めていく中で、プレーヤーに怪我をさせないため、罰則を出さないため、罰則時に示すことが求められている。罰則を出さないことが良いということではなく、許されないものは許されない、罰則を出すときはしっかりと与えるということを理解し、プレーが罰則になる前に基準をしっかりと伝える必要がある。その際、伝えつもりや一方通行にならないよう、思い切ってゲームを止めたり、強い笛を吹いたりなど工夫をしていかなければならない。

自分がレフェリングをするとき、今回考えたこと、学んだことが実践できるように努めていきたい。また、競技規則の読み込みや試合観戦の機会を増やし、復帰に向けてしっかりとできる準備をしていきます。